

夏目漱石『草枕』の世界 — 漱石の描いた「オフィーリア」 —

★ 開催日時、開催場所

平成29年9月14日（木）豊田産業文化センター内 とよた男女共同参画センターにおいて、一般学科教員 山口比砂による公開講座「夏目漱石『草枕』の世界」が開催されました。

★ 講座全体の説明

一般の方々を対象として開催された本講座では、『草枕』に描かれた漱石独自の「オフィーリア」の構図に注目して、小説を読み解き、漱石文学の核心に迫りました。今回は、豊田市在住の方だけでなく、みよし市、名古屋市、さらには県外からの申し込みもあり、29名の受講生の方々が、漱石文学の世界を満喫されました。一昨年から毎年続けて受講して下さっている方もあり、漱石文学の軌跡を辿る有意義なひと時となりました。

★ 講座内容の説明

講座の前半は、まず、シェークスピア『ハムレット』の登場人物オフィーリアがラファエル前派の画家、ジョン・エヴァレット・ミレーによって、どのように絵画化されたかを検証しました。また、近代日本におけるオフィーリア・コンプレックスの様相を、森鷗外『於母影』や尾崎紅葉『金色夜叉』の挿絵（鏑木清方）などから考察し、高専図書館蔵の画集や初版本（復刻版）を手にとってご覧いただきました。

講座の後半は、ミレーの構図と『草枕』の描写の差異を確認した後に、狂気を排除する救いのないミレーのオフィーリア像とは異なり、永遠世界と繋がる救いの時空が、『草枕』には用意されていることを検証しました。また、その独自の構図を支えている禅的世界観が、どのように表現されているかを分析し、一般的な「小説」とは異なる『草枕』の文芸世界を探究しました。

★まとめ

受講生の方々は、単なる鑑賞とは全く異なる様々な作品へのアプローチ方法に強い関心を示していらっしゃいました。当時の時代背景や文芸の多様性を知ることによって、今まで気付かなかった新たな読みの可能性を感じていただく、有意義な公開講座となりました。



公開講座の受講風景



初版本（復刻版）